

日本中小企業学会東部部会の第3回研究報告会は、ハイブリッド（対面とオンライン会議システム「Zoom」）での同時開催され、活発な議論が展開されました。

- 日時：2023年7月22日（土）14:00～16:00
- 開催場所：明治大学お茶の水キャンパス リバティタワー9階1095教室（対面とオンラインによるハイブリッド）
- 参加人数 33名

■ 研究報告1

報告者：小椋俊秀（株式会社シンクシステムズ）

テーマ：「中小企業家同友会の経営指針による組織変革に関する事例研究：従業員の变化に着目して」

司会：岡田浩一（明治大学）

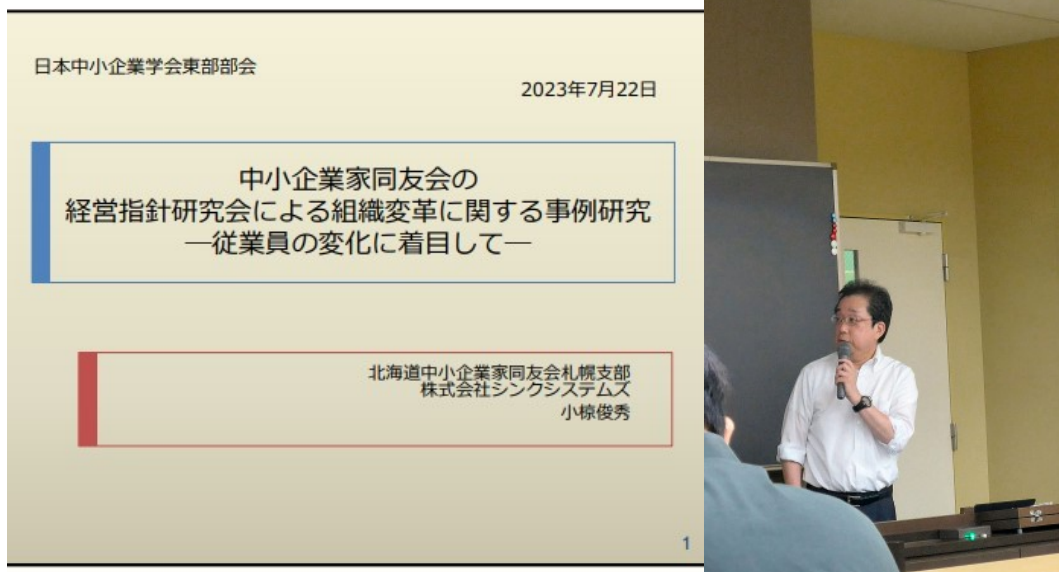
報告概要：

日本では、規模の小さな企業が圧倒的に多く、規模が小さくなるほど赤字率が高いなど、小規模企業の業績向上が喫緊の課題となっている。このような状況に対して、中小企業家同友会では、「経営指針研究会」に取り組んでおり、同研究会での支援を通じて、経営改善した小規模企業の事例も見られる。

以上を踏まえて、本報告では、経営指針研究会に参加し、経営指針に取り組んだ企業が、どのように変化するかについて、報告がなされた。

報告では、経営指針研究会に参加した小規模企業の事例研究から、経営者の危機意識を契機として、経営者による学習が開始され、経営者の意識・行動が変化し、従業員の変化につながるプロセスの存在可能性が示された。

報告後の質疑応答では、参与観察の方法や、経営理念が実際、従業員にどの程度浸透しているのかといった点について、議論がなされた。



■ 研究報告 2

報告者：村山賢誌（埼玉県よろず支援拠点）

テーマ：「中小企業及び小規模事業者の経営支援における課題と解決の方向性」

報告概要：

先行研究においては、中小企業経営者が重視する経営課題と、支援機関による支援には、ミスマッチが存在する可能性が指摘されている。本報告では、経営者が重視する経営課題と、支援機関による支援には、本当にミスマッチが存在するのか、存在するとすれば、その理由は何か、解決する方法はあるか、について、報告がなされた。

報告では、売上の向上や人手不足など、解決に時間を要する課題が残ることや、支援機関間の連携を阻害するコミュニケーション不足の解消や、支援機関の認知度向上が必要である可能性が示された。

報告後の質疑応答では、補助金申請における支援機関の役割や、本報告の独自性、エビデンスの必要性などが議論された。



以上